

第19回

国際保健福祉機器&保健福祉機器国際比較フォーラム'92

Intl. Home Care & Rehabilitation Exhibition

1992(平成4)年11月10日～12日

東京国際見本市会場B館(晴海)

- 「国連・障害者の10年」最終年にあたる1992(平成4)年、3度目の国際展示会として『老人と障害者のための「国際保健福祉機器展&保健福祉機器比較フォーラム」』を開催
- 展示規模を拡大し、国際規格の展示会を実現提供でき、また自動車メーカーの出展が増え、来場者は「介護関係者」・ホームヘルパーが22.6%、「企業関係者」24.8%、「行政関係者」14.4%、「一般」22.0%などとなった

主 催 全国社会福祉協議会 保健福祉広報協会
 後 援 厚生省、労働省、通商産業省、郵政省、東京都、
 参加各国大使館
 特別協賛 日本自転車振興会、電気通信普及財団、丸紅
 基金、富士記念財団
 来場者数 41,133人
 出展社数 202社：海外8か国66社、国内136社



[第19回 ポスター]



筆文字の「HCR」は第19回のポスターをデザインした心書家の園家文苑氏のデザインによるもの。以降、商標登録し、こんにちまでロゴとして継続使用。

(書：園家文苑)

- ▶ 福祉人材確保法成立
- ▶ 「国連・障害者の十年」最終年

保健福祉機器国際比較フォーラム

欧米とわが国の福祉機器の品質、技術開発、使いやすさ、デザインなどを紹介し、利用者と研究開発者、福祉施設・病院、行政、教育、内外の関係者などが実際の製品を前にしてこれからの課題について意見交換を行う「保健福祉機器国際比較フォーラム」(3テーマ、各日1テーマ)が開催された

1. どこが違う！世界の車いす 日本の車いす

コーディネーター

田澤英二氏 国立リハビリテーションセンター学院主任厚生教官

2. 使いやすいベッド～寝たきりから自立への工夫

コーディネーター

石神重信氏 防衛医科大学リハビリテーション科助教授

3. 障害者の自立とコンピュータ ～可能性を拓けるコミュニケーション機器

コーディネーター

太田茂氏 川崎医療福祉大学教授



「保健福祉機器国際比較フォーラム」は、保健福祉広報協会と全国社会福祉協議会との共催、電気通信普及財団、丸紅基金、富士記念財団の協賛で実施

特別企画①アメリカ、オランダ、デンマーク、日本の4カ国の「自立のためのモデルルーム」と主要なコンテストで受賞された機器の展示コーナー「これからの福祉機器はこうなる」、「手軽にできる自助具の作り方教室」を開催

